

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム なぎみ苑
日付	平成17年2月7日
評価機関名	社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
評価調査員	特別養護老人ホーム等での認知症高齢者介護歴 9年 介護支援専門員歴 4年
自主評価結果を見る（事業所の自主評価結果にリンクします）	
評価項目の内容を見る（岡山県の定めた評価項目へリンクします）	
事業者のコメントを見る（評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります！）	

外部評価の結果

講評
全体を通して（特に良いと思われる点など）
<ul style="list-style-type: none"> 入居者が非常に落ち着いて過ごされており、職員とともに生活していると感じられます。 家賃を取っておらず、利用しやすい価格設定です。 建物内は窓も大きく居室・フロアともに明るく、廊下も一面がガラス窓で、雄大な奈義山を望むことができ、安らぎを感じられます。 全入居者の居室から中庭に出ることができ、洗濯物を干したり、また、花壇にて花や野菜などを栽培しており、収穫の楽しみが味わうことができます。 併設している特別養護老人ホームと連携を密にしており、看護や緊急時の対応も安心できます。 排泄のたびの清拭など、入居者の清潔の保持に取り組みられています。 各入居者の水分摂取が毎日記録されており、脱水防止の取り組みがされています。
特に改善の余地があるとと思われる点
<ul style="list-style-type: none"> 共有スペースや廊下などに、あまり生活感が感じられないため、工夫が必要ではないでしょうか。 担当主任は異動後間もないのですが、職員の研修への参加や職員会議の充実など意欲があります。昨年の改善項目への取り組みもあり、今後責任者との意思疎通を図りながら活性化されていくことが期待されます。

運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か <ul style="list-style-type: none"> 快適で安心な生き甲斐のある生活を創出するため、入居者に対し日常生活における援助などを行うことにより、痴呆の進行を穏やかにし、生活の中での混乱やトラブルなどを減少させ安心した生活を支援します。 職員同士や入居者に対し、上下関係がない同等の立場で生活することを支援します。 日々の生活の中で、決して強制はせず支援していくことを大切に考えています。 		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境づくり		
4	建物の外周や空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か <ul style="list-style-type: none"> ホーム内がくつろげる場となるよう、職員が入居者のベースにあわせ支援されています。 入居者の言葉を拒否したり、入居者に強制しないよう、主任が職員に指導確認を行っています。 床や居室の扉を木目調のものを用いたり、外の景色を自然に眺めることのできる大きな窓にすることで、視覚的に落ち着けます。 		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か <ul style="list-style-type: none"> 入居者に対する援助方法や言葉掛けについても、決して入居者を否定することなく受け入れた上で、さりげない援助にて行動を促し、自立支援につなげています。 ちぎり画や農作業など、入居者個々の能力や好みに合わせた取り組みがされています。 居室内は個人の空間として使用が認められています。 		

運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か <ul style="list-style-type: none"> 外部研修への職員の参加の機会を作っています。 グループホームでの職員の実習機会場の場づくりをすすめ、利用者本意という統一した意識を高めることに取り組んでいます。 職員が専門職であるという立場に立ち、日頃から入居者から学んでいくという姿勢を大切にしています。 		